

RM インフォメーション VOL.1 INFORMATION 2003. 1

●発行 株式会社日本アルマック 〒102-0083 東京都千代田区麹町4-5桜井ビル4F TEL:03-3288-2755 FAX:03-3288-2757

1 月号 CONTENTS

- 経営者のためのリスクマネジメント講座 第1回「リスク社会の到来」
- リスクファイナンスとしての保険活用 第1回「自動車事故」
- 時流を読む 「BIS改正案 銀行に資本増強迫る」他
- A.A.S.のご紹介 「もしもの時、頼れるパートナーがいますか？」

経営者のためのリスクマネジメント講座

リスク社会の到来！平成維新



株式会社日本アルマック
代表取締役
日本リスクコンサルタント協会
専務理事
浦嶋 繁樹

リスクコンサルタントの草分け的存在。「企業はリスクを確実に取ることで発展できる」と提唱。リスクマネジメントをテーマに、金融機関、大手企業、各種団体を対象としたセミナー講師や大学院講師を務めるとともに、リスクコンサルティング活動を展開している。

リスクあるところにチャンスあり

大変化が起きている日本において、経営者は3つのタイプに分けられるような気がします。

一つ目は、先が見えずに不安ばかり募り、すっかり元気をなくしているタイプ。

二つ目は、「オレには関係ないよ」と傍観している能天気なタイプ。

そして三つ目は、「この変化はチャンスだぞ」とはりきっているタイプです。

皆さんがどのタイプに当てはまるかはわかりませんが、この変化がリスクとチャンスの両方を生むことは、紛れもない事実でしょう。そして、今まで同じ立場だったはずの人たちが、勝ち組と負け組とにはっきり分けられてしまうこともまた、事実です。この変化の「先」を読めるかどうか、勝ち組になる、つまり成功するための条件となるでしょう。

では、この変化により日本はどこへ進んでいくのでしょうか。

時代の転換がリスクを生む

現在の日本における改革は、国の「内」と「外」、双方から進んでいます。この状態は、かつての幕末に似ています。

まず内からは、皆さんもご存知のように、行政、財政、司法、教育、経済構造、社会保障、そして金融など、平成維新とも言える大改革。

そして外からは、グローバルスタンダードによる外圧。つまり現代における黒船来航です。

かつてのエリートであった武士たちが、幕府の終焉とともに失業してしまったように、今もまた肩書きだけのエリートは失業してしまう時代です。人々の価値観は大きく変わり、今までとはまったく違った社会がやってくると考えておくべきでしょう。

それでは、リスク社会を迎えた日本において、チャンスをつかむためにはどうすればいいのでしょうか。これから数回に渡り、皆さんと一緒に考えていきましょう。

リスク ファイナンス としての 保険活用

第1回 自動車事故

日本は、アメリカに次いで世界第2位の自動車大国。日常生活はもちろん、企業活動においても、自動車は欠かせない存在となっています。それだけに、自動車事故のリスクに対しても十分な備えが必要です。

そこで、万一事故を起こしてしまったときにどんな損害が発生し、どんな保険で対応するのが適切なかをみてみましょう。

賠償責任リスク

まず考えられるのが、事故で他人を死傷させたり、他人のモノや自動車を壊してしまい、損害賠償を請求されることです。

人身事故はもちろん、最近では対物事故の賠償金額も高騰しており、1回の事故で1,000万円、2,000万円を超えるケースも少なくありません。会社の体力によっては、かなり脅威といえるでしょう。

しかし、突発的で高額な賠償リスクを、定期的で低額な保険料というかたちでコスト化することによって、会社経営はぐっと安定したものになります。この場合は、自動車保険の対人賠償保険、対物賠償保険で対応できます。

人的損失リスク

次に考えるべきは、車に乗っていた社員の被害でしょう。

これも自動車保険の搭乗者傷害保険、人身傷害保険などでカバーできますが、ここで注意すべきことは補償の重複です。

たとえば、労災保険や傷害保険などにも併せて加入していて、しかも社外の人間は車に乗せないような場合、自動車保険の傷害部分はあまり必要がない可能性があります。自動車保険の傷害部分を不担保にすることで、保険料を削減することができます。

財産損失リスク

自社の車両損害については、やはり自動車保険の車両保険が対象となりますが、これも免責金額を設定したり、場合によっては不担保にすることで保険料削減が可能です。

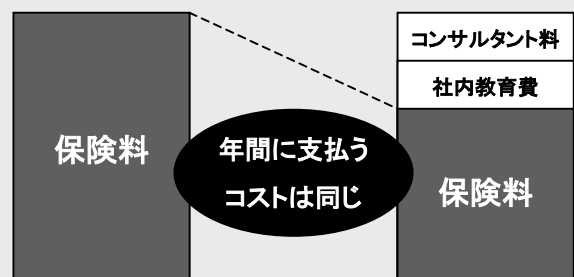
しかし、ただ保険料を減らすために補償を削ったところで、実際に少額の事故が頻発するようでは意味がありません。たとえば下図のように、浮いたコストを事故防止のために活用するなどの工夫が大切です。

また、自動車で運送していた商品が、事故により破損してしまうリスクも考えられます。このような損害をカバーするのが、運送保険です。

運送保険は、商品だけでなく現金や有価証券にも掛けられますし、運送中だけでなく保管中や加工中も補償範囲にすることができます。

また、外注の運送業者が事故を起こし、その運送業者に弁済能力がないときなども補償してくれるため、業態によっては非常に頼れる保険でしょう。

<リスクコスト活用例>



時流を読む

リスクに対する感性が高まれば、自然と時代の「先」を読む力が備わってきます。最新ニュースをリスクマネジメントの視点で分析し、今後の展開や社会への影響を予想してみましょう。

「発明の権利」は 企業のもの？研究者のもの？

社内研究者による、「職務発明」訴訟が相次いでいます。

日立製作所の光ディスク訴訟では9億7,000万円、味の素の人工甘味料訴訟では20億円、日亜化学工業の青色発光ダイオード訴訟では20億円。それぞれ研究者の元社員が、企業に発明対価として支払いを求めたものです。

今まで企業に属していた研究者が、はっきりと自己の権利を主張するようになったようですが、驚くべきはその請求金額の大きさ。発明の対価、つまり知的財産の価値が高騰していることがわかります。裏を返せば、たとえば他人の特許権を侵害した場合、その賠償額も跳ね上がる、ということです。

著作権や商標権なども含め、悪意はなくとも他人の知的財産権を侵害してしまった場合、「知らなかった」では済まされない可能性もあります。たとえ「うっかり」であろうが、知的財産権の侵害は犯罪です。賠償請求されてしまった場合、その損害を補償するような保険は今のところありません（訴訟費用を補償する保険はあります）。

今後は優秀な弁護士を確保しておくとか、何よりも権利を侵害しないような対策を講じるなどの、リスクマネジメントが必要な時代ではないでしょうか。

また、知的財産権訴訟が急増している一方、訴訟の審理期間を短縮させる動きが活発になっています。具体的には、現在平均で1年ほどかかっている審理期間を、準備期間などを見直すことで半年程度に短縮させる方針です。

判決が素早く下りることで、スピードが求められる企業の特許戦略に与える影響は小さくなり、商機を逃すことも少なくなるでしょう。

B I S 改正案 銀行に資本増強迫る

1988年に、B I S（国際決済銀行）の日米欧の銀行監督当局で構成するバーゼル銀行監督委員会は、「国際業務に従事する金融機関は、それなりの自己資本を確保しなければならない」として、「自己資本比率8%以上」という国際統一基準を決定しました。これがB I S規制です。

自己資本比率とは、自己資本（資本金、利益など）を資産（貸出金、有価証券など）で割ったものですが、銀行の場合には分母である貸出金が増えると自己資本比率は低下します。つまり、貸出金の上限は銀行の自己資本によって制限されるとともに、自己資本比率を上げるためには貸出金を抑えることになります。貸し渋りの大きな要因です。

このB I S規制を、現行よりも厳しくする改正案が検討されています。現在は企業向けの融資の場合、そのリスクは一律とみなされ、求められる自己資本はどんな債権でも融資額の8%以上。しかし、貸し倒れリスクに応じてこれを割増・割引する仕組みが、改正案の内容です。

たとえば大企業向けなどに多い無担保債権では、リスクが小さければ最低で現在の0.15倍の自己資本で済むようになります。一方不良債権は、最大5.6倍の自己資本を求める、といった具合です。

仮に100億の債権があれば、現在は一律8億円の自己資本が必要となりますが、改正案ではリスクに応じて1億円強～約45億円と、大きな差が生じます。当然、不良債権を多く抱えた銀行は、自己資本の増強が急務となるでしょう。

本改正案は2006年末の導入予定。経営者の対抗策としては、とにかく自社に対する取引銀行のリスク評価を高めることに尽きます。それにはまず、自社の体力を正確に把握することが大切です。自社の評価を下げている要因を見極めることが、効率的な経営改善の第一歩となるでしょう。

A.A.S.ネットワークは、21世紀に挑戦する個人や企業を応援します

もしもの時、頼れるパートナーがいますか？

A.A.S.（アルマック・アライアンス・ストラテジー）とは、全国の保険代理店による事業システムの総称です。1社1社の持つノウハウは小さなものでも、事業理念、リスクマネジメント手法、マーケティング戦略等を共有して効率性を高めることで、その機能を最大限に発揮し、お客さまに最善のファイナンス&リスクコンサルティングを提供しています。私どもはA.A.S.に参画し、リスクコンサルティングサービスを提供することで、皆さまに心から信頼されるパートナーとなることを目指しています。

全国に広がるA.A.S.ネットワーク（平成15年1月現在）

北海道地区 <ul style="list-style-type: none">◎ (有)佐々木保険サービス○ CoCoRo保険サービス◎ (有)LRランドマーク保険	中部地区 <ul style="list-style-type: none">◎ T.M.A.JAPAN◎ (有)アルマック豊橋○ (有)坂田商会◎ (資)ライフプランニング◎ 浜上保険センター(株)
東北地区 <ul style="list-style-type: none">◎ ノシロ保険サービス(株)◎ (株)青雲◎ (有)東日本保険◎ (株)ケー・アンド・アイ◎ リスクコンサルタント北栄	関西地区 <ul style="list-style-type: none">◎ (有)ジーアールシー◎ (有)ベスト・インシュアランスサービス
関東地区 <ul style="list-style-type: none">◎ (有)アルマックインシュアランス○ (有)リーディング・エス◎ (有)きのうちエージェンシー○ (有)オフィス・プラスアルファ○ シラト保険設計◎ アクツ保険事務所◎ (有)ネクスト◎ (株)かいひん◎ 大平起業(株)◎ (有)オリエントサービス◎ 成田 正敏	中国・四国地区 <ul style="list-style-type: none">◎ (有)アルマック米子◎ (株)コンダクト
	九州地区 <ul style="list-style-type: none">◎ (株)アンシン○ 岡田 徹○ (有)セントラル・リスク・マネジメント○ 伊万里リスクマネジメントクラブ◎ (有)りんくるエンタープライズ

◎…A.A.S.メンバー ○…Abc会員

編集後記

明けましておめでとうございます。2003年のスタートとともに、本誌「RMインフォメーション」も創刊の運びとなりました。

お伝えしたい情報を活字にするというのは意外と難しいもので、同時にその責任も感じております。誌面へのご意見・ご要望などございましたら、お気軽にお寄せください。一方的な情報提供だけではなく、皆さまとの架け橋となるような誌面作りを心がけてまいります。

それでは今後ともお付き合いのほど、よろしくお願いいたします。

RMインフォメーション VOL.1
INFORMATION 2003 1

2003年1月発行 定価400円(税別)

ご意見・ご要望は上記までお寄せください。